

本年もよろしくお願い致します

2023年
1月号



長期休暇を終えた子ども達

あけましておめでとうございます。今年は3年ぶりに様々な行事が復活したところもあり、お正月らしさを味わえたのではないのでしょうか？
私は大晦日、久しぶりに紅白をじっくり見ました。びっくりするくらい若い出演者が多く、「聞いたことある歌だけど、こんな人が歌ってたんや〜」と、関心しきりでした。私の両親は演歌が少なく知らない歌ばかりなのが少々不満そうで、時代が変わってきたな〜と、感じました。

今年、新年始まってからすっごく調子がいい中学女子がいます。彼女はいつも、長期休暇明けはとってもいい感じです。2学期はAngeに帰ってくると気分が沈んでいる事が多かったのですが、長期休暇明け、いい顔できてくれました。きっと、家族で充実した休暇を過ごせたのだと思います。本人と話をしていると、色んなお手伝いをしたとの事。内容を聞くと、そんな事もできるのかと、関心しました。家族の一員として認められ、感謝されることを沢山経験できたのだと嬉しく思いました。
また、今までオムツで来所していた子がお正月明けしばらくしてからパンツで来所するようになった子もいました。彼は日中はパンツなのですが、朝起きて家でパンツに履き替えられずにいました。履き替えようとすると怒っていました。でもある日、保護者が頑張って履き替えさせるとその時は怒っていたのですが、次の日は「あ〜、これね」という感じになり、3日目には自分でトイレで履き替えたそうです。きっとこの子にとっては朝のオムツ→パンツは未知の世界で、替えるとどんな風になるのか？怖かったのでしょう。それか、ルーティンを崩されて嫌だったのかもしれませんが、でも、やってみると案外「こんなもんか〜」と、大したことなかったの次の日からすんなり受け入れられたのだと思います。
色々な経験を積み重ねる事で世界が広がり、また新しい経験が受け入れられて世界が広がり…と、いい循環になっている事が嬉しいですね。それには、保護者の「エイヤッ！」のチャレンジも大切です。「経験がないから」「怒ったら大変だから」ではなく、少しずつ新しい事にチャレンジできる年になればいいなと思います。

郡 奈美

クリスマス会



12月23日、コロナの流行もあり3年ぶりとなったAnge・Ange west合同でのクリスマス会を行いました。プログラムはギター演奏、劇発表の「大きなカブ」と「三匹の子ブタ」、初心ラブのダンスです。
12月に入ると、当日に向けて大道具やグッズ作り。カラフルに仕上げためくりやみんなで塗ったレングのお家、演奏を盛り上げるギターやマラカスなど、子どもたちの味のある作品が勢ぞろい。スタッフはなにわ男子好きの子に引っ張られながら、ひそかに必死にダンスの練習を行っていました。
そして迎えた当日は大盛り上がり。ギター演奏には手作りのマラカスやギターで子どもたちも参加！そして1か月ほど各事業所で活動してきた劇では、堂々とセリフを言う子や、ピアノに合わせて楽しそうにふりをする子など素敵な姿がたくさんありました。最後のダンスではフラッシュモブのようにスタッフがダンスに参加するとつられて子どもたちも出てきて、10人ほどのなにわ男子メンバーがそろい、クリスマス会の最後を盛り上げていました。十分に準備期間があったことで、子どもたち一人一人がいろんな形でクリスマス会に参加し、みんなで特別な一日を過ごすことができました。Facebookにも様子を上げております。是非ご覧ください。

Facebook



アンジュのお正月



年明け恒例、「凧作り」と「凧あげ」です。好きなイラストを選んで写して描いたり、得意な絵がある人は自由に描いたりしました。中には文字で「これから俺は…」とお気に入りのアプリゲームの画面をそのまま書いた個性的な凧もあり、どの人もお気に入りの一枚ができました。服部は近くの豊島公園の駐車場で凧あげ。でもここは余り風が吹かず、上がりません。元気な子ども達は走り回って凧をあげています。ですが、時間がある時に行くふれあい緑地は良く風が吹き、少し走っただけで高く上がります。凧あげに疲れた子ども達は、ドッグランで犬をみて楽しんでます。westはふれあい緑地が近く、すぐに行けます。後で保護者の方から聞いたところ、どうやら凧あげ初体験だった人もいたようです。お家が好きなのであまり外に出たがらないのだから。お家では気が乗らないことも、Angeではその場の雰囲気やお友だちとの勢いでできることも多いものです。Angeで新たな経験を知り、楽しみ、お家でも楽しんでくれるといいです。

～研修会「障がい者家族の老いる権利」を行いました～



12月5日、佛教大学教授の田中智子先生をお迎えして、研修会「障がい者家族の老いる権利」を開催いたしました。
田中先生はまず、「障害者・家族の高齢期の生活問題としてどのようなものが生じているのか？」また「家族から社会へケアを移行するとはどういうことなのか？」を皆さんと一緒に考えていきたいとテーマを挙げられ、今の現状を具体的な例を用いながら、お話しくださしました。
参加者からは「現在の障害者福祉における老後の生活や必要な資金などイメージが描けるようになった。」や「家族でケアを完了させるのではなく、周囲との関わりを持ち、社会資源を利用し、またその準備をしなければいけないと気づかされた。」などの感想が寄せられました。